

## アドバイザー派遣事業実施報告書

- 1 主 催 鳥取県高等学校書道教育研究会
- 2 対 象 鳥取県高等学校書道教員（教諭・常勤講師・非常勤講師）
- 3 期 日 平成29年8月17日（木）  
13:00～16:55
- 4 会 場 米子コンベンションセンター 第1会議室
- 5 演 題 「刻字の学び～書道Ⅰでの活用を目指して～」  
講師 尚綱大学 教授 林田 俊一郎 氏

### 6 講義内容

以下の内容について講義、指導助言をいただいた。

#### (1) 刻字とは何か

・先生が用意してくださった資料に基づき、刻字の歴史等について説明を受けた。刻字作品の多くは木材に彫られているが、木材に彫るとなると、大学での講義でも、半年かけて作成する。今回は、書道Ⅰの授業で活用できるような内容ということであるため、石膏を用いた刻字を行う。

#### (2) 書道Ⅰにおける刻字～実践を交えて～

・今回は、書道Ⅰの授業において、限られた時間・予算等の中で行う前提であるため、ホームセンター等で手軽に購入できる安価な材料等を用いての方法を教えてくださいました。以下、石膏の作り方や刻し方についての注意事項等を列記する。

##### 【石膏の作り方・刻し方】

- ①ゴム製のバットに粉末の石膏と水を入れて混ぜる。しばらく（一日程度）動かさず置いておく。着色してある石膏がよければ、ここで絵の具などを混ぜておく。層のような着色を望むなら、この段階で混ぜ込む方法が良い。
- ②固まったら取り出し、数枚重ねた新聞紙等の上に乗せる。水分が完全に乾燥するまでそのままにしておく。（敷いてある新聞紙等は適宜取り替える）
- ③乾燥したら割るなどして好きな大きさにする。その際、刻す作品の書稿を作り、大きさをある程度合わせる。
- ④書稿を基にし、石膏に布字する。布字が完了したら彫刻刀で刻す。三角刀や切り出し刀を用いるとよい。刻し方については、資料を用いて説明していただいた。

##### 【刻字後の流れ】

刻字後、文字や周囲に着色し、額への貼り込みを行った。和柄やカラフルなセロハン等の紙を額に挟みこみ、表面のガラス面に接着した。

文字部分をどのような色にするのか、文字以外の部分をどのようにするのか、額に挟み込んだ台紙との色味のバランスはどうか、など、美術的な要素を必要とするという説明があった。

また、会場には、これまでに先生が感銘を受けられた様々な美術展の図録等を持ってきていただいた。そして、先生が開催された個展の際の作品写真もお持ちいただいた。それらを参考にしながら、自分の作品を制作した。

## 7 所 感

今回の研修は、書道 I で活用できるような刻字の授業展開等について、実践を交えながらご指導いただいた。

学習指導要領の、表現領域において、篆刻・刻字等を扱うこととなっている。そのため、篆刻を扱っている学校は多くあるが、刻字を扱う場合、多くの時間と多様な材料・道具等を必要とするため、取り組むことに消極的な学校が多い。しかし、今回の講義等を通して、短時間であっても、刻字に取り組むことが出来るよう、林田先生が工夫された指導法等を学ぶことが出来た。

現在、刻字作品の制作や指導等を専門的に行っている方が少ない中で、林田先生の講義を受講できたことは非常に有意義であった。今回学んだことを早速実践に反映させ、さらに実践を重ね、成果を明確にできるよう会員で確認できた。

今後も様々な研修を企画し、鳥取県の高等学校書道教育の充実を図っていきたい。

以下、参加された方々の感想をもとに成果を列記しておく。

- ・新しい刻字表現のあり方を学べて良かった。林田先生の柔軟さに共感できた。
- ・台紙づくりに一生懸命になりすぎて、彫り方を普通の、ただ文字をなぞっただけに終わってしまった。書の世界を広げさせる意味でとても良く実践したいと考えた。彫ることが初めてだったので、大きな石膏に簡単な文字でよいので、実際に先生が彫られるところをもっと見る事ができればより良い実践が出来ると思う。
- ・簡単に取り組むことが出来る内容でとても良かった。授業に刻字を取り入れることが出来そうと思った。創意工夫して新しい展開を考えたい。

